

# 2019年度第1回町田市環境マネジメントシステム外部評価委員会

## 議事要旨

【日 時】2019年6月27日（木） 午後6時30分～午後8時30分

【場 所】市庁舎5階（5-3）

【出席者】

委 員：松波（委員長）、奥（職務代理）、斉藤（崇）、須永、斎藤、越智、多久島、小池、菟澤

事 務 局：町田市環境資源部 荻原、環境政策課 宮坂、川瀬、土志田、坂牧、井上、香山

コンサルタント：株式会社知識経営研究所

【傍聴者】なし

### 議題

#### 1 2019年度外部評価の進行について

- 事務局から、第3回外部評価委員会までの議題及びスケジュールの確認を行った。  
質疑なし

#### 2 環境マネジメントシステムの実績報告について

##### (1) 外部評価意見への対応について

- 事務局から、説明を行った。

斎藤委員：小中学校の紙購入量について、2019年度に文書管理システムの導入とあるが2018年度の紙購入量は減っているようである。何か別の対策を行ったのか。

松波委員長：その点は次の議題で説明をしていただく。

奥委員：環境関連法令のチェックシートについて、記載されている内容はすべての部局・施設に共通するものと思われる。施設によっては、記載以外の法律に該当するものが有り得るはずである。各部局・施設の環境関連法令一覧の作成をした方が良いのではないかという指摘に対して、部局ごと施設ごとの特性を踏まえたものではなく、この一枚のチェックシートを共通シートとして作成したということで良いか。

事務局：今回のシートは全ての関連法令を網羅しているものではなく、主要なものを抜粋したものとして使用していく。各施設ではこれをベースにして、工夫しながら対応いただくことを考えている。

奥委員：最低限の法令等要求事項をピックアップしたものということだが、それ以外で例えば、給食調理施設であればグリストラップをしっかりと清掃することな

ど求められる。そうした項目を施設ごとにもれのないように把握し、法改正があった際にもそれを把握し、シートに反映させていくことをシステムとして対応していくべきという指摘であった。対応をそのレベルまで上げていただきたい。昨年の指摘で今年すぐにといいわけにはいかず、まずは主要なものということでシートを作られたのだと思うが、この先は施設ごとに関連するものを網羅したリストを作り、定期的にチェックしていく仕組みを作っていただきたい。

事務局：今回ははじめの一步であるが、そういう方向になるように対応していきたい。

奥委員：内部監査のときは、施設特性に沿ったリストが作成され、チェックがされているかを見るべきである。EMSを回していく上では本来はそういったところまで求められる。

## (2) 2018年度実績について

- 事務局から、説明を行った。

松波委員長：先ほどの紙の件についてはどうか。

斎藤委員：紙購入量が減少している理由が分かれば教えていただきたい。

事務局：財務会計システムの更改により、2018年度より集計方法が変わり、色紙やコーティング紙は集計の対象外とした影響があると考えている。

斎藤委員：昨年度までは増加傾向にあったが、今回は小中学校で約5%減少している。大きな変化かと思うが、要因は色紙などを集計に含めなかったことなのか。

事務局：集計に含まれていない種類があるため減少しているが、実際は横ばい状況ではないかと考えている。

松波委員長：小中学校についてはコピー用紙のみが集計されているが、使用している紙はコピー用紙だけではない。減少しているように見えるのは、集計に含めなくなった紙類があるからだということであれば、経年変化のデータにはならない。同じことがグリーン購入でも言える。今年度から新たにデータを取り始めている状況なので、今回は評価しない方がいいのではないかと。

事務局：紙の購入量は枚数で示しているため、経年評価は確かに難しい。グリーン購入は、集計単位を数量から件数に変更しているが、達成率の向上を目指していくところは変わらない。

斎藤(崇)委員：集計単位が変わると改善点はどこかという分析が分からなくなる。この集計方法を今後使用するのであれば、2015年度まで遡及し、また目標値がどう変わるのかを見せていただいた方が今の状況の評価ができる。そうでないと過去からどうなってきたのかが分からず、また、この先目標にどうシュートしていくかが見えてこない。

事務局：システム変更に伴うものであるため、過去のデータを遡って同等の集計を行うことはできない。

斎藤(崇)委員：そうすると目標値がどこにあるのかが分からず、評価のしようがない。

- 奥委員：財務会計システムに依存しなくてはいけないのか。特に紙の購入量については、システムに依存すると今まで集計対象にしていた一部が抜け落ちてしまい、本来の使用量が正確に把握できていない・していないということになってしまう。今回の集計対象にならなかった部分を他に把握する術はないのか。
- 事務局：その部分を把握するのは実質的に難しいことに加え、事務の効率化が市の経営課題として挙がっている。
- 奥委員：できるだけ労力を減らしていく流れは理解するが、それによって一部のデータが抜け落ちてしまっただろうか。EMSを回していく上で実態を正確に把握していくことは大前提である。
- 奥委員：グリーン購入は数量ベースから件数ベースに集計単位を変えているが、グリーン購入法に基づき国では実績把握は量で行っているはずである。他自治体も国に倣って量で把握を行っている。町田市が件数で集計し公表を行うと、全国的な把握が同じベースでできなくなる。町田市だけが独自の出し方をしているという問題が起こるのではないか。グリーン購入ネットワークでは全国の地方公共団体のグリーン購入率を調査しているが、集計方法が同じという前提で行っているはずで、その辺りはどう考えているのか。
- 事務局：国は、金額・数量・件数など、どの集計単位を使用するかは定めておらず、各自治体の運用に任されている。ご指摘のとおり、多くの自治体が数量で集計しており、件数で集計を行っている自治体は町田だけではないが、少ない。
- 奥委員：グリーン購入法は規制法ではないため、こうしなければならないというものはないが、これまでは数量ベースでやってきたところを契約件数に変えるというのは、過去との比較ができなくなってしまう。
- 事務局：ご指摘の点は大きなデメリットであるが、ここをスタートとして以降は基準を変えずに集計していきたいと考えている。
- 齋藤(崇)委員：契約件数で集計をするということは、例えば、適合製品をまとめて購入せず、1点ずつ購入すれば数値が良くなるということなのか。
- 事務局：その点も懸念はしているが、今までの数量による集計でも、例えばボールペンなどグリーン購入がしやすい物品を大量に購入すれば達成率はそちらに引っ張られてしまう。どちらの集計方法にしても良し悪しはある。
- 奥委員：会計システムで集計を行うという方針なので、仕方がないが、実態・中身をよく見せていただきたい。資料3において、P17にこの部分の説明の記載があるが、集計手法をどのように変更したかP3に記載すべきではないか。
- 事務局：説明を追記して対応する。
- 松波委員長：財務会計システムにグリーン購入を組み込んだことは先行事例となるのか。
- 事務局：人の手で集計するのではなく、システムで把握していくということが予算や人員が限られた中で理想形であるということで、グリーン購入ネットワークの研修での講師を依頼された。参加自治体からも、システム導入をどう実現したかという質問が多く寄せられた。
- 松波委員長：この2点のデータの扱いについてはどのようにするか。経年変化が見られな

いため、参考値として扱うこととするか。

齋藤委員：過去のデータから色紙やコート紙を取り除いたデータは出せないのか。

事務局：物理的に難しい。

コンサルタント：定量的な評価は紙とグリーン購入の2点にできないと決めていただいて良いかと思う。数量的な部分は評価しないとコメントに明記した上で、現地確認でオフィス系の部署に行った際に定性的なところを見ていただく方法が良いのではないか。

松波委員長：1次評価を5段階で行うことになっているが、その方法は見直しが必要か。

コンサルタント：過去の外部評価において5段階の評価点をつけていただく際は、実績の数値的な増減が重要な評価軸であったが、その部分を今回は定性評価のみとする明記していただく方法になるかと思う。

松波委員長：紙とグリーン購入の実績数値は参考値と考え、定性的な部分のみで評価を行うということで良いか。

コンサルタント：そうである。

松波委員長：そうすると、現地確認は小中学校に行った方が良い。

松波委員長：排出係数の件で事務局から説明があった。排出係数の変化で、温室効果ガス排出量は大きく変わる。排出係数が大きくなるだけで、電気使用量が減っていてもその努力がみえなくなってしまう。使用量の増減で温室効果ガスの部分を評価した方が良いか。

事務局：2019年度から排出係数を配慮した契約に取り組むのでそこを見ていただければと思う。

松波委員長：資料3P10にあるように、契約した電気事業者には代替値を超えているところもあり、その場合はエネルギー削減の努力が排出量に表れず、不利となってしまう。排出量と使用量の両面から評価をすべきではないか。

事務局：補足をするが、2018年度に契約した電気事業者の中に代替値よりも高い排出係数の事業者があるのは、入札時は代替値未満であった排出係数が実際の契約期間では代替値を超えてしまったためである。この時はそういった結果が起こってしまったが、基準を設け一定程度の環境に配慮した事業者と契約することで、温室効果ガスの排出量を削減していきたいと考えている。

松波委員長：入札時の排出係数と実際に契約した時の排出係数が違ってしまいうということであれば、排出係数にせつかくの努力が打ち消されてしまうのではないか。

事務局：そういうケースも有りうる。

コンサルタント：市の第4次環境配慮行動計画は温室効果ガス6%削減というのが大上段にある目標であり、その達成に向けた計画である。契約をする際に、環境に配慮した契約を行うことを仕組みにいったというのは先進的であり、素晴らしい。一方でご意見にあったように努力が見えにくいという点はあるので、それをどう見るかを委員のみなさんで議論していただければと思う。例えば、温室効果ガスは増えてしまっているけれどもエネルギーの増減を重く見て評価を良くす

るなど、そういった形で検討いただければ良いかと思う。なお、今後は、排出係数は改善していくことを国は予定しており、そうなると逆の意味で同じ様な課題が出てくる。その際はまた委員のご意見の中でまとめていただければと思う。

コンサルタント： 内部環境監査はどうか

奥 委 員： 廃掃法（廃棄物の処理及び清掃に関する法律）の不適合があった。もれがあるというのがしっかり見ると出てくる。

松波委員長： 不適合 3 件は完全に対応しているのか。

事 務 局： 対応済みである。また、不適合事例は共有し、同じことが起こらないよう、周知を行っている。

### 現地確認について

松波委員長： 現地確認で特に見るべき施設の提案を含めて、希望はあるか。例年、エコオフィス活動で特に評価の高いところ、低いところなどを候補としている。

事 務 局： 小中学校は昨年までは実施ができていなかったが、今年度は調整ができ、見ていただくことができる。オフィス系は今委員長からあったように、エコオフィスの得点の高いところ低いところを選ぶ必要があれば、調整を行う。

松波委員長： 紙の件があるので、小中学校は入れたほうがいい。また、グリーン購入の件もあるので、エコオフィス評価が 5.0 の部署や 3.7 といった低めの部署も入れた方が良いのではないか。

事 務 局： その辺りも含めて調整させていただければと思う。日程は 7/9 か 7/12 の 2 日程の中で考えていきたい。

松波委員長： それで良いか。

事 務 局： どなたがどの日程というのも含めて調整し、連絡させていただく。

コンサルタント： 紙の使用量をみるときはリサイクルボックスを見ていただくと効果的であるので、ぜひ現地で確認していただきたい。

### 3 その他

- 事務局から、書類の提出方法等、事務連絡を行った。

奥 委 員： 財務会計システムについて、グリーン購入ネットワークで話した資料などを見せていただきたい。

事 務 局： 別途対応いたします。